



Weekly Report

2006~2007年度
国際ロータリーのテーマ
率先しよう
2006~2007年度
ウイリアム・ビル・ボイド

創立:1980年(昭和55年)1月10日
会長:遠山 堯郎
幹事:天野 正明
会報委員長:稲垣 豊
例会日:毎週木曜日 PM12:30~
会場:ヒルトン名古屋
事務局:460-0008
名古屋市中区栄1丁目33
ヒルトン名古屋910号
TEL:052-211-3803
FAX:052-211-2623
MAIL:276nagoya@mizuho.rc.jp
URL:http://www.mizuho.rc.jp/

第1316回例会

雑誌月間

2007年4月26日(木) 晴 第38回

司会:高木 勝会場委員長
斉唱:「日も風も星も」
ゲスト:一宮RC 森 克彦さん
春日井RC 貴田永克さん
名古屋南RC 加藤明司さん
名古屋名駅RC 青島邦夫さん

会長挨拶

遠山堯郎会長

私は、学生時代を過ぎても芝居をしていました。有名な俳優に「おまえは仲代達矢のような俳優にはなれん!芝居はやめろ」と言われて好きな芝居をやめて現在があります。これで良かったと思います。

私の恩師、恩人、こばやし・ひろしさんは、劇作家、演出家として知られています。1954年に劇団「はぐるま」を創立、今年で53年になります。こばやし・ひろし:作・演出で、遊行僧「円空」が、円空誕生の地、岐阜県羽島市の「羽島市文化センター」で、07年2月に「劇団はぐるま」により4回上演されました。この芝居が上演されるにあたり、こばやしさんが「庶民の中のエンクさん」として紹介されている内容を紹介させていただきます。こばやしさんは、日本の坊さんくらい表向きと本音が違う存在はない。「ゴインサン」とか「ゴエンサン」(御院住さんが転じたもの)とたてまつるが裏に回ったら「坊主、くそ坊主」である。こばやしさんは僧侶です。いろんな経験があると言います。自分が法衣を着て交差点で赤信号を待っていたら、トラックがとまり、運転手が私の顔を見るやいさなり「坊主、坊主、くそ坊主」といって「べっ」とつばを吐いた。むろんつばは届かなかったが、妙に私は腹がたたなかつたと言います。朝、職場で上司に叱られ、溜まったものを私にぶつけたのかなと思っただけ。あるスーパーでの出来事で、子どもが私の顔を見るなり、親しげに「お食さん、お食さん」と言ったそうです。あわてたのはそのお母さんで、見ると毎月、月参りに行く時にお茶を出してくれる御門徒のお嫁さんであり、子どもを叱りひきずるように逃げ去った。毎月お布施を押しいただいているからお食さんに見えたのだと思う。自分は、これでいいと思ったそうです。坊さんは庶民の悩みを共有する立場から離れてはいけません。虚勢を張るからくそ坊主に転落する。エンクさんと親しく呼ばれた円空は虚勢とは縁のない人である。だから全国を遊行して回っても江戸や京都に居つく人ではなかった。地方を求め、岩屋を求め、アイヌを求め、木っ端を求めて仏を刻んで歩いた人である。

木彫りの仏像は日本だけとは知らなかったが、そういえば中国の仏さんは石像か金銅物か、乾漆仏で見られるように大きく、金銀朱がごつてり塗ってある。ところが木はどこにでもある。木くらい日常生活に欠かせないものはない。それが仏になる。それも何も塗ってない【しら木】の仏さん。エンクさんの仏には権威のひとかけらもない。これこそ庶民の仏さんといっていていい、その庶民のエンクさんを舞台に乗せたと言っています。



出席報告

市岡正蔵出席委員

会員74名 出席48名 (出席計算人数52名)

出席率73.08%

4月19日は補填により 90.38%

幹事報告

天野正明幹事

- ・ニコボックスより能登半島地震災害義援金として、お一人1,000円計74,000円をガバナー会へ納入しました。
- ・次週5月3日(木)は法定休日のため休会です。
- ・明後日4月28日(土)から5月6日(日)まで事務局はお休みです。
- ・5月6日(日)は2007~2008年度のための地区協議会です。9時30分受付開始、10時30分会議開始です。

臨時例会変更のお知らせ

名古屋北	5/18(金)			
名古屋みなと	5/18(金)			
名古屋東南			5/30(水)	
名古屋中		5/21(月)※		
名古屋和合	5/16(水)	5/23(水)		6/6(水)
名古屋名東		5/22(火)		
名古屋名北		5/23(水)		
名古屋大須	5/17(木)※		5/31(木)※	
名古屋栄				6/4(月)※
名古屋名南		5/22(火)※	5/29(火)◇	
名古屋昭和		5/21(月)※	5/28(月)※	
名古屋西南		5/24(木)		
名古屋東山	5/17(木)			
名古屋葵			5/31(木)※	
名古屋空港	5/14(月)※			
名古屋清須	5/15(火)	5/22(火)		
尾張中央		5/23(水)		
豊山一城北			5/29(火)	

(注) ※は休会・その他理由につきビジター受付はありません。
◇はサイン受付時間が17:30~18:30となります。

ニコボックス

市岡正蔵ニコボックス委員

- ・5月3日は私の誕生日です。長瀬 八郎さん
- ・4月10日は結婚記念日です。森 恒夫さん
- ・4月27日は妻のバースデーです。また先日、田中政雄さんに長男のアイスホッケーでお世話になりました。佐藤 一郎さん
- ・4月28日は女房の誕生日です。4月25日に4人目の孫が生まれました。内孫で男の子でした。伊藤 豪さん
- ・本日卓話を致します。よろしくお願ひ致します。堀 慎治さん
- ・堀ちゃんの卓話を楽しみにしております。ガンバ!!ガンバ!!
- ・内田 久利さん
- ・堀君、卓話ご苦労様。高須 洋志さん
- ・本日11時から12時長期ビジョン委員会を開催。8回にわたり、委員の皆様には大変ご苦労様でした。心より感謝申し上げます。大島 浩嗣さん

委員会報告

R情報委員会:大島浩副委員

本日、皆様のメールボックスにロータリーの友をお配りいたしました。4月は雑誌月間にあたりますので、ロータリーの友をご熟読いただけたらと思います。

卓話

堀 慎治さん

「リンクスランド紀行」

みなさんこんにちは。入会2年目の堀でございます。私、入会2年目なのですが、この場でお話を致しますのが3回目になります。今回はパワーポイントを使って説明を致します。

「リンクスランド紀行」ということで、イギリスにゴルフをしに行ったお話をします。「リンクス」というと普通、「ゴルフ場」とお考えだと思いますが、少し調べましたら、「リンクスランド」の定義は「野生の芝草や灌木が生えた広大な海辺の砂丘地帯のこと」だそうです。リンクスのゴルフ場というのは、作るのはティーグラウンドだけで、グリーンとフェアウェイは短く刈って作られているのがリンクスの定義だそうです。世界に約4万コースほどありますが、リンクスと呼べるのは150くらいしかないそうです。私も6月に行きますが、ペプロビーチや川奈、古賀、小樽というのはリンクスではなくて、シーサイドコースという定義になるそうです。

今回、スコットランドのセント・アンドリュースとタンペリーというゴルフ場へ行きました。最初にセント・アンドリュースのジュビリーというコースを回りました。これは1897年ビクトリア女王の在位50周年を記念して作られたコースで、ビクトリア女王がジュビリーと呼ばれていたことからジュビリーコースと付けられてたそうです。セント・アンドリュースリンクスには6つのコースがありますが、このコースは2番目に長いコースです。初日は風が強くて、グリーン上に立っているとボールが動きそうで、ショートパットはほとんど入りません。その時は90くらいで回りました。オールドコースの創立は15世紀ごろといわれていますが、詳しい年代はわからないそうです。今は7,115ヤードあります。その前まではジュビリーが一番長いコースと言われていましたが、オープン競技をするためにどんどん長くなって今は一番長いコースになりました。

有名なブリッジがあり、よく観光客が写真を撮ったり、アーノルド・パーマーやジャック・ニクラウスが観客に手を挙げて撮られてる写真が有名で、私も同じ場所で写真を撮りました。18番ティーグラウンドはクリークの所にグリーンがあって1番ホールと共通になってます。まさにゴルフの聖地だと思います。右側が道路になっているので、右に抜けるとOBになりますが、左は1番グリーンと共有になっているので、どれだけ打ってもセーフです。観光地なので、ゴルフをしない人もたくさん見に来ていて、18番や1番で構えると「静かに」と言葉が出るのでトーナメントに出ているような錯覚に陥ります。17番は近くにあるオールドコースホテルを超えるティーショットになります。昔のクラブハウスもそのまま残っていて、中島常幸が13回たたいたバンカーもあり、下がとても硬く、出すのがとても大変です。ホテルの近くにとっても素晴らしいゴルフのドライビング練習場があって、個室のように木で覆われた場所で一人ずつ打てるようになっています。練習場の中にプロの方がみえて、クラブの調子が悪ければなおしてもらえますし、子どもが練習するティーティングの場所があったり、ビデオを撮る場所もあります。私が行った中で世界一の練習場だと思います。ホテルも素晴らしいのですが、値段が高く、コース側で1泊8万円くらいです。レストランにはスコットランドすべてのウィスキーが味わえるバーがあり、さすがにおいしかったです。

セント・アンドリュース滞在中に、セント・アンドリュースロータリークラブへ、メーキャップに行きまいりました。セント・アンドリュースゴルフホテルで週に1回ロータリーのミーティングがあります。いつも夜7時からで、私は6時30分頃行ったのですが、みなさんホテルのバーでお酒を飲みながら雑談をして、ホテルの食事をしてから会が始まるようです。今回出席した例会では寄付の話が主で、メンバーは30人ほどのとてもアットホームな感じでした。トーナメントの前に全英オープンのようにスコティッシュオープン(スコットランドオープン)があるようで、外国の選手はそこでリンクスに慣れてトーナメントに出るそうです。タイガー・ウッズだけはアイルランドのリンクスコースで練習して来るそうです。



次にセント・アンドリュースに近いキングズバーンという2000年にできた新しいリンクスコースに行きました。本来は1793年に9ホールできて、第二次大戦中に空軍に接収され、長く放置されていましたが、R&Aの資金援助を以て18ホールになって生まれ変わりました。非常に評価の高いホールで、近年出来たコースの中では一番早く全英オープンが開催されるコースだと言われてます。このコースはとても調子が良くて74、5で回ることができました。

次はグラスゴーから南に行ったセント・アンドリュースとは反対側のターンペリーに行きました。ここは1903年の設立で、第二次大戦中は空軍のパイロットの練習場だったので飛行場の跡があるのですが、リニューアルしてオープンしました。一時、日東興業が所有していたコースだそうです。現在はウェスティンググループに買収されました。このコースはジャック・ニクラウスとトム・ワトソンが優勝争いをしたコースであり、2009年には全英オープンが開催されます。今後も世界各国のゴルフコースを回ってみたいと思っております。

ロータリー・ワールド

「魅力的なロータリー地域雑誌の登場」

ロータリー・ワールド・マガジン・プレスに新しく加わったポーランドとウクライナ向けの雑誌、「ロータリアン／グロス・ロータリー (Rotarianin/Glos_Rotary)」は、豪華絢爛なライフスタイルを紹介する雑誌かと思うほど洗練された印象を放っています。

魅力的なデザインが「雑誌を手にした人の興味を誘い、読んでみようという気にさせる最初のきっかけをつくる」と、発行人のマスイエジ・マズールさんは述べます。

この雑誌は、共産主義崩壊後に真っ先にロータリーに復帰した第2230地区(ベラルーシ、ポーランド、ウクライナ)に向けて発行されたものです。プロツラフ・ロータリー・クラブ会員であるマズールさんは、この地区が東はウクライナのヤルタから西はポーランドのシュチェチンまで1,931キロメートル以上に及んでいると言います。地区内には2,700名近くのロータリアンが存在し、ポーランド語、ウクライナ語、ベラルーシ語、ロシア語の4か国語を話します。

この雑誌は、公式雑誌として発行されていた旧「グロス・ロータリー」と第2230地区の会報とが合併されて出来たものです。8月に初版が発行された「ロータリアン／グロス・ロータリー」は、良質の紙を使用し、割り付けにも芸術的センスが生かされ、活動中のロータリアンをとらえた写真が満載されています。発行は月に2回。ロータリーの地域雑誌には、国際ロータリーの代表的な刊行物、「ザ・ロータリアン」誌を筆頭に31の雑誌があります。その多くが最近装いを新たにしましたが、その背景には、メディアに詳しいロータリアンたちが、ロータリーのメッセージを推進し、新会員の心をとらえるにはロータリーの雑誌にも商業的な魅力を取り入れる必要があると認識したことがあります。

地域雑誌が末永く親しまれるものとなるか否かは、雑誌づくりに当たる専門家の技術と記事の内容とのバランスにかかっていると、マズールさんは言います。プロツラフにあるマズールさんの出版社によって発行されている「ロータリアン／グロス・ロータリー」では、専属の編集者2名と美術監督者1名とが制作に携わっています。地元ロータリアンからの寄稿記事も歓迎しています。

第1号では、地元のロータリーやローターアクトについての記事を掲載する一方、若い会員を求めるロータリーや飢餓に直面するニジェールの苦悩といった世界的な意義を持つ内容も特集しています。「地域雑誌の質は、ロータリー地区の現状を直接反映するものです」と、マズールさんは語ります。

お詫びと訂正

第1314回ウィークリーにおいて、2ページ目の右側、会長の古屋佳菜子さんが話している文中に「加藤美佳さん」という名前が出てきますが、正しくは「加藤実都さん」です。お詫びの上、訂正致します。

今週卓話

5月10日(木)

会員卓話：馬場將嘉さん
テーマ：「飛鳥の明日香」

次週卓話

5月17日(木)

会員卓話：入江 理さん
テーマ：「私の趣味」